

八十年代へ

歴史の歩みも

人間らしく生きるため

ラントライキ。これじゃ、固まりようもなからず。

市 成 そして、不満が大き

く残ったまま、組合員の意見も聞

かされることなく妥結していく。

では値上げ。大幅値上げ要求が絶

なく、「人間として生きるための

短歌 新年を祝う

退職者 高椋龍生

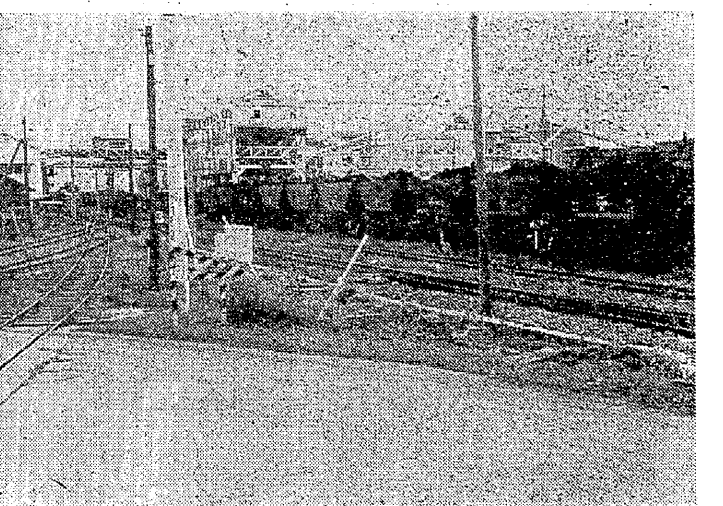
とてのくれば迷ひ込みたるインコ鳥元日の籠に音たてておの
落盤にあわす爆発にもあわで厚縁妻より受くる齢六十四
ホウを飲みとき歌詠みながらゆく年新しく一つ重ねぬ
抗闘に鮮血のどろろとなりて九年の厚縁妻と酌み合ふ
このころ癒ゆる非しのみえをめて妻の鮮な飾りてぞりぬ



駒馬の天満宮のコマ犬

いっしょにがんばろう 80年代の歩みは早い

司 会 さん
て、これからの
ことですが...



ひどい差別支配が、職場の隅々までに及び、労働者を分断し、苦しめている。

八〇年代、炭鉱労働者の命と生活を守るために

国内資源を重視し

革新勢力強めよう

組合長 合志 幸男

八〇年代は、今後の政治情勢を
変える重大な時期であります。

先の総選挙で、自民党は国民の
批判を受けて大敗し、総裁指名を
めぐり一ヶ月も政治の空白状態を
続けました。権力争いと、腐敗し
た党の反国民的体質を国民の前に
露呈し、国民の不信をますます大
きくしています。

自民党は、もはや政治を担当す
る能力を失っており、そのた
め保守・中道の協力により、政

の座にしがみつこうとしているの
です。

また世界経済は、OPEC(オ
ペック)の資源確保を目指す石油
の生産縮小、輸出の制限、イラン
革命に見られるような対米対立、
そこからくる石油不況や値上がり
傾向は日まに拡大し、インフレ
に不況が加わり、情勢はますます危
機状況にあります。

日本においては、田高と石油製
品の値上げなどで労働国民大衆の

生活は苦しく、自民党・独占資本
は経済危機の乗り切りを、国民に
犠牲を負わせることで乗り切らな
す。

東京サミットにおけるエネル
ギー対策として、石油使用量を削
減し、代替エネルギーとして原子
力に天然ガス、石炭などの利用拡
大を打ち出しましたが、わが国で
は依然として、石油・原子力に依
存し、石炭は値の安い海外炭の利
用に集中しています。

年二千万トンという、国内炭生
産目標を、実績は大きく下回り、
千七百七十七トンにとどまっていま
す。

あけましておめでとうといひいま
は、労働者や勤労国民の生活不安
をこの上なく大きくしていきまし
た。

一九七九年は相次ぐ物価高と、
インフレで家計を苦しめられ、職
場では相変らず不況を口実とした
合理化が横行され、失業・就職難
などなど、すでに値上げが約束さ

えています。新年早々、いっそう
のきびしさを覚悟しないわけには
まいりません。

こうした場合の中で、自民党政
府と資本家は、一体となって、闘
わぬ労働者つくりの攻撃を、巧
妙にかけてきています。これは資
本主義の社会では、逃れることの
できない苦悩であることを、三池
主婦会結成以来二十六年にわたる
主婦会運動は、資本や国家権力と
の闘いのなかで、あるいは学習活
動の中で、身をもって確認するこ
とができました。

私たちは、憲法に定められまし
た、健康にして文化的な、人間ら
しい生活を求めるために、労働者
や勤労国民に対する搾取を強める
ます。

全国の諸先輩・同志の皆様方の
いっそうのご指導、ご協力をたま
わりますよう、よろしくお願ひ申
上げ、新年のごあいさつと致し
ます。

これからの闘いの歴史に学びな
から、八〇年代を希望の時代とな
すために、三池主婦会は、全国の
働く仲間と連帯と交流を
深めつつ、当面する春闘や参議院
議員選挙勝利に向けて、年頭に闘
いの第一歩を力強く、みんなで踏
み出し、そして労働者解放(婦人
解放)への闘いの道を、今年も歩
き続けることを決意したいと思ひ
ます。

今年(昭和五五・一九八〇年)
の特定・特殊休日が、十二月十八
日、会社との間でできました。これ
まで同様土曜か月曜に多いが、参
考までにお伝えすれば次のように
なっています。

一月は四日(金)が特定休日。
一〜三日までの特殊休日に引き続
く。一日土曜をはきんで、六日は
日曜となる。

四月は十九日(土)が特定休日。
五月は、一日(月)が特定休日。
六月は、五日(月)が特定休日。

五月は、一日(月)が特定休日。
六月は、五日(月)が特定休日。
七月は、二十一日(月)が特定休日
八月は、十三日(水)が特定休日
で、十四・十六日が特殊休日とな
り、十七日は日曜。五日間の連休
となる。

九月は、十五日(月)が特定休日。
十月は、十八日(土)が特定休日。
十一月は、三日(月)が特定休日。
十一月は、三十日(火)が特定休
日で、三十一日〜五十六年一月二
日の特殊休日、同三日の特定休
日、四日の日曜と休みが続く。

特殊休日とは?

特殊休日は、労働者や勤労国民の生活不安
をこの上なく大きくしていきまし
た。

一九七九年は相次ぐ物価高と、
インフレで家計を苦しめられ、職
場では相変らず不況を口実とした
合理化が横行され、失業・就職難
などなど、すでに値上げが約束さ